

道の駅 (牛久沼)のあり方と雇用創出の重要性について

龍ヶ崎市議会議員 大竹のぼる

道の駅の縮小案で市民の皆さんは納得できますか？

市長は規模を縮小し、事業費を約**8億円削減した**と表明しましたが、市の負担額はどのくらい減ったのでしょうか？

実は、市の実質負担額は、**3億8000万円**しか減っていません。

しかも、想定される交付金はその減額幅を上回る**4億2390万円**も減額されてしまいました。

今回の計画では物販などの地域振興施設は白紙としながら、事業費用も結局は当初の概算事業費とほぼ変わらない金額になっています。

今ならまだ事業を止めることができます。

当初の概算事業費と
ほぼ同じ

市の実質負担
3億8000万円
しか減っていない

＜
交付金の
減額が大きい

交付金等
4億2390万円
減額されました

道の駅当初の概算事業費 (2018年3月)

▶ **17億1079万円**

再検証で示した概算事業費
25億6100万円

事業規模を縮小した概算事業費
▶ **17億6100万円**

再検証で示した概算事業費のうち
市の実質負担額

16億5600万円

事業規模を縮小した概算事業費のうち
市の実質負担額

12億7600万円

再検証で示した概算事業費のうち
想定される交付金等の額

9億500万円

事業規模を縮小した概算事業費のうち
想定される交付金等の額

4億8110万円



全国の道の駅はどのような施設か

道の駅は、旅行者や運送業者など長距離ドライバーの休憩所として広まってきましたが、現在では休憩施設の枠を超え、沿道地域の文化・歴史・名所・特産物等を活用した「目的地」になる道の駅が増えています。また、災害時の物資輸送や避難等の広域的な防災拠点として役割を果たすための機能を盛り込んでいます。道の駅は強力な事業です。これからの龍ヶ崎市の姿を見せていく情報発信地であり、災害があった時、将来ある子供たちを守る条件を満たす経済性がなければなりません。

現在の市長案では、地域振興施設は白紙とし水上スポーツやサイクリングの拠点となる施設のみということで、**道の駅としては非常に寂しい内容**になっています。

参考事例

道の駅うつのみや ろまんちっく村



画像：公式ホームページより

ろまんちっく村は、46haの広大な敷地をもち、温泉や宿泊施設もある滞在型テーマパークとして運営。農産物直売所や地物の食材が楽しめる飲食店だけでなく、林業体験ツアーや手作り紅茶の体験ツアーなど「地域の課題を解決するツアー」も手掛ける。2018年度には、利用者数1970万人と全国屈指の利用者数を誇る道の駅。

牛久沼の利活用とにぎわいづくり

市が実施したアンケート結果は総じて「道の駅は必要ないが、牛久沼のにぎわいづくりが必要」という結果でした。市長の事業計画を聞き限り道の駅でなくても費用を抑えて同じことができるのではないかと疑問が残ります。そこで、道の駅以外の事例として、かすみがうら市にあるかすみがうら交流センター「かすみマルシェ・かすみキッチン」を紹介します。つくば霞ヶ浦りんりんロードにも面しており、レンタサイクルの運営や地元の農産物を使った料理を提供するカフェも併設されており、地域の交流拠点として機能しています。道の駅でなくても、牛久沼のにぎわいづくりはできるのです。



かすみキッチン・かすみマルシェ
※画像は公式ホームページより



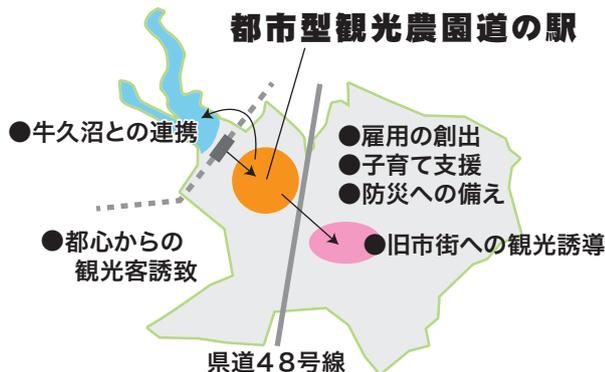
大竹のぼるは豊かな龍ヶ崎市を実現します！

道の駅と統合された魅力的な 都市型観光農園

日本全国に農業、自然、地域資源を活かしSDGsに沿った施設が誕生しています

牛久沼道の駅については、事業費においても、立地・機能面においてもメリットが少ないことはお話をいただきましたが、龍ヶ崎市を活性化し持続可能なまちづくりのためには、**地域資源を活かし働く場を生む事業**が必要です。道の駅は牛久沼ではなく、**県道48号線から停車場線付近に都市型観光農園と統合した道の駅**として整備することを提案します。

現在進行中のスマート農業レタス工場に加え、果樹園、フルーツランド、加工品工場などによる雇用創出、都心からの観光客を誘致し、旧市街への観光拠点としても活用できます。もちろん**災害対応道の駅**として整備することで、安心して暮らせる生活基盤にもなります。



【伊賀の里モクモク手作りファーム(三重県)】

おいしさと安心の両立をテーマに低添加製品だけを製造。ハム・ウィンナー工房、地ビール工房ブルワリー、入浴施設など多彩な施設を運営



【加賀フルーツランド(石川県)】

フルーツ狩り体験に特化した施設いちご、ぶどう、さくらんぼ、りんごなど四季折々収穫体験ができる



【クルックフィールズ(千葉県)】

オーガニックファーム、太陽光発電、バイオジョフィルターによる排水浄化など細部に至るまでSDGsにつながる事業を行い、音楽やアートも取り入れ、若者世代が集まる施設

※各画像は公式ホームページより

龍ヶ崎市の 国民健康保険税は 高い?!

(料)

高齢者が
生き生き生活できるまちづくり
若者が
移住したいと思うまちづくり



税金とは公共の福祉を実現するために必要な財源ですが、市民生活にとって税負担はなるべく少なくして欲しいという気持ちもとてもよくわかります。その中でも、龍ヶ崎市538,000円、牛久市487,000円、取手市515,000円と**当市の国民健康保険税は、近隣他市と比べると高い**※1状況にあります。

負担額増の大きな要因としては、

- 市内で使われる健康保険費用が大きい
- 生産人口比率による負担額の違い

当市の特徴は、他市より生産人口比率が高いが、年少人口は牛久市より1.8ポイント低い。取手市が高齢人口比率が高く、生産人口は低いに関わらず、国民健康保険税は当市よりも23,000円程低いということは、**取手市は高齢者がより健康に過ごしている**ということになります。保険税を下げるためにも高齢者が生き生き生活できるまちづくりと、若者が移住したいと思うまちづくりが待ったなしの状況です!

※1 国民健康保険税の算出条件について

【条件・給与所得】

夫 400万円、妻 100万円、子供(18歳以下) 課税対象額 夫357万円、妻57万円(400万円-控除43万円)
各市の①医療給付費分②後期高齢者支援分③介護納付金分(40~64歳までで算出)

【各市の負担割合】

	龍ヶ崎市	牛久市	取手市
＜医療給付費分＞	5.48%	4.39%	7.5%
均等割	26200円	19600円	21000円
＜後期高齢者支援分＞	2.54%	2.61%	1.2%
均等割	12200円	10700円	10000円
＜介護納付金分＞	2.07%	2.42%	1.5%
均等割	13100円	11500円	8000円

【各市の人口構成及び比率(R5年1月1日現在)】

	龍ヶ崎市	牛久市	取手市
15歳未満	7,703(10.2%)	10,083(12.0%)	10,278(9.9%)
15歳~64歳	44,479(58.9%)	48,314(57.5%)	56,896(54.8%)
65歳以上	23,334(30.9%)	25,628(30.5%)	36,546(35.2%)